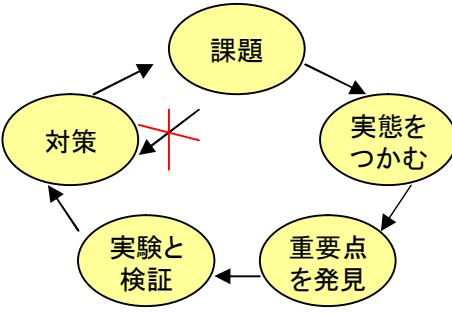


# 課題によるマネジメント(仕事研究)

●事実をつかむ前に、すぐ「対策」を考えないこと。「対策」を思いつくと、事実を知ろうとしなくなる。

①目的	④よい課題の条件									
<p>1、知恵を出して仕事をするチーム 2、成果に向かってお互いに力を合わせるチームを育てることです。</p> <p>そのポイントは課題によるマネジメントすなわち「仕事を研究的に行うこと」です。</p>	<p>1、店の成果につながるものであること 2、身近で、自分たちの力で何とかなりうこと 3、「自分たちなりの発見」がありそうなこと 4、人を責めるおそれがあるものは後回し(カラッと明るく行う) 5、何から手をつければいいかが、ほぼイメージできる程度に具体的であること</p>									
②仕事研究=知恵をこめるプロセス	⑤状況の共有とミーティング									
<p>1、何とかしたいこと(課題)があつて 2、実態を調べて 3、重要ポイント(要因または仮説)を見つけて 4、仮説を実験、検証してみて 5、それから工夫を加えた対策を実行する</p>  <p>・疑問を素直に追いかけ、工夫を心がける</p>	<p>1、共有の風土づくり →同じレベルで状況をわかり合うこと。 状況を共有することでメンバーは課題を何としてもナントカしたいという「仲間」になれる。</p> <p>2、ミーティングの仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データに向かって半円形で座る</li> <li>・メンバーは4、5人が理想</li> <li>・進め方</li> </ul> <div data-bbox="833 1257 1349 1538"> </div> <p>・ミーティングをすること、しないこと</p> <table border="1" data-bbox="833 1628 1341 1808"> <thead> <tr> <th>Mしない</th> <th>ミーティングをする</th> <th>リーダーの役割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①予測(ヒラメキ)</td> <td>予測に基づいた手を打つことが可能か</td> <td>やるかやらないかの決断</td> </tr> <tr> <td>②調べればわかること</td> <td>事実をつかんで、持ち寄ったデータに対して</td> <td>仮説の選択の決断</td> </tr> </tbody> </table> <p>・「知っている事実」ではなく「調べた事実」から考えるようとする。</p>	Mしない	ミーティングをする	リーダーの役割	①予測(ヒラメキ)	予測に基づいた手を打つことが可能か	やるかやらないかの決断	②調べればわかること	事実をつかんで、持ち寄ったデータに対して	仮説の選択の決断
Mしない	ミーティングをする	リーダーの役割								
①予測(ヒラメキ)	予測に基づいた手を打つことが可能か	やるかやらないかの決断								
②調べればわかること	事実をつかんで、持ち寄ったデータに対して	仮説の選択の決断								
③仕事に知恵をこめるチームのものさし										
<p>ものさし1: 事実に基づいて考えているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実をはっきりつかむこと</li> <li>・重要なポイントを発見すること</li> <li>・仮説をたてて検証すること</li> </ul> <p>ものさし2: 仕事の進め方に変化があったか</p> <p>ものさし3: 業績は前より良くなつたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「努力の結果として成果が出る」のではない。「<b>成果をめざすから、何とか努力ができる</b>」のだ。</li> </ul> <p>ものさし4: メンバーは前より元気になったか</p>										